教育論文の書き方

ー実践を振り返り、書きながら考え、新たな実践を創り出すために　ー

（１）教育論文はエッセーでない。自分の論を展開する説明文である。

（２）教育論文は一人よがりの文章ではなく相手に自分の意見を伝える文章である。

（３）教育論文は読書感想文ではなく、参考書籍は論を展開する材料にすぎない。

（４）教育論文は、実践を振り返り成果と課題を明らかにすることを目的とする。

津島市立南小学校
浅井　厚視

教育論文で最初に考えること

研究の枠組み（領域）

何について書くのか
テーマ　　（主題）

研究で明らかにした
いことは　サブテーマ

研究仮説（実践の視点）

研究の方法は　？

研究（実践）の方法

研究（実践）の計画

教育論文の構成・割付は

		文章　割付
1	研究主題	10%
2	主題設定の理由	
3	研究仮説（実践の見通し）	10%
4	研究計画・研究方法	
5	研究の実際と考察（実践と検証）	70%
6	研究の成果	10%
7	研究の課題	
8	参考文献等	

研究主題（テーマ）の決定

①研究のめざす姿　「～育てる」
②研究の対象領域・分野　「～おける」
③研究の方法（手だて）　「～を通して」

ア　研究主題で①めざす姿を　サブテーマで②研究対象領域を
イ　研究主題で③手だてを　サブテーマで①研究の方向・目標を
ウ　研究主題で①研究のねらいを固定し　サブテーマで年次を

主題　～を育てる　～を目指す　～科学習指導　～の研究
【研究のめざす姿・対象領域・分野】

サブテーマ　～を通して　～を中心に　【手だて】

※　これらの要素を考えてテーマの作成を行うこと

研究仮説の決定　　研究仮説とは

<u>仮説検証的</u>教育論文における仮説は、

□□において　　〇〇を●●すれば　　△△となるだろう

【教科・領域等】【手だての工夫】【ねらい・めざす子ども像】

場・内容　　改善点・独自性　　検証方法の確立

①どこで（対象・場）　・・・・　研究の領域を限定する

②何をどのようにすることによって（内容・方法上の工夫）

・・・・　研究の重点を集め、集中させる。オリジナルの面を

③どう現状を変えようとするのか（子どもの変容の姿）

・・・・　研究の結果を予測し、研究の筋道を立てる。

研究仮説を作成するならば・・

研究仮説

研究の手だて

（１）

（２）

研究のオリジナリティーは

具体的な手だてを書こう

教育実践を行い、考察する①

○　単元・題材・活動の決定

「単元・活動等が決まったら、学習指導要領とその解説、教科書、今までの実践記録を読む」

○　教材分析

「学習活動」（習得・活用）を想定しながら、教材研究を行う

○　子どもたちの実態調査　現在の力の把握

○　学習指導案の作成

○　学習活動評価等一覧表作成（単元の指導計画）評価の場

指導過程	学習活動	子どもの反応	教師支援・指導上の留意点	評価活動

実践を行い、考察する②

○　「習得」とその知識・技能の「活用」場面の設定を

○　言語活動の充実　内容の例示を

○　授業実践と授業分析

授業記録をとり、教師の発問や子どもたちの発言を読み直す。

○　抽出児童・生徒の思考の変容

○　カルテ・ポートフォリオ（個人内の蓄積型評価）と

事後の実態調査による数値（集団内の傾向把握）

○　作品・報告書・ポスター（学習のまとめ）などの分析

○　事前調査と事後調査との比較

研究の実際と考察の書き方①

ア　単元（活動）の全時間を時系列で記述する。
イ　単元（活動）の中で、何時間かを取り出して、分析視点に基づき、記述する。

ア　教材研究・教材との出会い
イ　教師の働きかけ「発問」「出」「手だて」
↓　↓
ウ　子どもの反応

手だてに対して子どもの反応

考察の書き方
【判断】＋「根拠」

【判断】有効・有効でない
【根拠】子どもの変容・ノート

研究の実際と考察の書き方②

・・において、〇〇させたことが、子どもが▽▽させていく上で、□□（有効・有効でない）である。

【発言】「・・・」という発問に対して、「〇〇」「▽▽」という発言が見られ・・・。A児は・・。B児は・・。

【ノート・作品】・・・について記述させた際に、「〇〇」「▽▽」と、・・・記述した生徒が□%いたから判断した。A児は・・・。B児は・・・。

【活動】「・・・」という指示（発問）した際に、全体の□%（何人）の子どもが・・・していた。A児は・・・。B児は・・・。

○　実践を『考察』していく視点

・主題、仮説、研究の手だて、検証方法を要約し、教育実践による事実をもとに、自分の考えや新たな発見を展開させる。

・仮説が正しかったかどうかについて、研究の手だてから検証していく。

・手だてに応じた「子どもたちの反応や変容」を分析する。

○　今後の成果と課題　　わかりやすく箇条書きで

・仮説をもとに実践を分析し、結論として言えることを明確にする。

・次の実践につながる課題を

・１学級１単元だけの実践を一般化してほしくない。

（継続研究を）